

統計

2006年から2010年までに行った自家末梢血幹細胞移植の疾患別症例数。

	悪性リンパ腫	多発性骨髄腫	計
2006年	5	1	6
2007年	6	0	6
2008年	4	0	4
2009年	2	0	2
2010年	5	1	6
計	22	2	24

2006年から2010年までに行った同種造血幹細胞移植の症例数。

造血幹細胞の種類による分類

	血縁者間		非血縁者間		非血縁 臍帯血	計
	骨髄	末梢血	骨髄	末梢血		
2006年	7	0	8	1	0	16
2007年	7	0	11	0	0	18
2008年	3	0	7	0	0	10
2009年	1	0	4	0	0	5
2010年	2	0	6	0	0	8
計	20	0	36	1	0	57

移植前治療の強度による分類

	骨髄破壊的(フル)	骨髄非破壊的(ミニ)	計
2006年	10	6	16
2007年	7	11	18
2008年	7	3	10
2009年	5	0	5
2010年	6	2	8
計	35	22	57

対象疾患による分類

	急性骨髄 性白血病	急性リンパ 性白血病	悪性リンパ 腫	多発性骨 髄腫	慢性骨髄性 白血病	成人T細胞 性白血病	計
2006年	8	2	3	0	2	1	16
2007年	6	1	4	2	4	1	18
2008年	6	2	1	1	0	0	10
2009年	3	2	0	0	0	0	5
2010年	5	2	1	0	0	0	8
計	28	9	9	3	6	2	57

治療成績

急性白血病

2001年1月から2010年12月までに当センターにおいて、137名の初発の急性骨髄性白血病の患者さん（年齢14歳から74歳、中央値47歳）と36名の初発の急性リンパ性白血病の患者さん（年齢15歳から67歳、中央値32歳）に対して多剤併用の化学療法を行いました。完全寛解が得られたのは急性骨髄性白血病137名中102名(74.5%)で、急性リンパ性白血病36名中30名(83.3%)でした。寛解導入療法中あるいは強化・地固め療法中の治療関連死亡は6名(3.5%)にみられました。

急性骨髄性白血病

5年全生存率は $37.9 \pm 4.7\%$ 、5年無病生存率は $29.3 \pm 4.1\%$ でした。

急性リンパ性白血病

5年全生存率は $40.0 \pm 8.8\%$ 、5年無病生存率は $35.0 \pm 8.6\%$ でした。

同種造血幹細胞移植

2006年1月から、2010年12月までに当センターにおいて、57名の患者さん（年齢17歳から68歳、中央値44歳）に対して同種造血幹細胞移植を行いました。移植後100日以内の治療関連死亡は7名(12.3%)、非再発死亡は計15名(26.3%)に見られました。

3年全生存率は $42.9 \pm 6.9\%$ でした。